

薬師堂東遺跡発掘調査遺跡見学会資料

仙台市教育委員会 平成21年12月5日（土）

調査要項

遺跡名	薬師堂東（やくしどうひがし）遺跡	所在地	仙台市若林区木ノ下三丁目
調査原因	高速鉄道東西線建設、（仮称）薬師堂駅建設、市道拡幅		
調査主体	仙台市教育委員会	調査受託	国際文化財株式会社
調査期間	平成21年8月～平成22年12月（予定）	調査面積	試掘調査約600㎡ 本調査1066㎡



薬師堂東遺跡と史跡陸奥国分寺跡

薬師堂東遺跡の発見

高速鉄道東西線の（仮称）薬師堂駅の建設に伴い、試掘調査を行ったところ、古代と考えられる竪穴住居跡などが見つかりました。このため、遺構の分布する範囲を「薬師堂東遺跡」として、新たに遺跡の登録をすることとなりました（「調査区全体図」参照）。

今年度、本発掘調査を実施したのは、（仮称）薬師堂駅の駅前広場となる場所の一部です。調査の結果、古代の竪穴住居跡（右の写真）や江戸時代の墓が見つかりました。

江戸時代の墓には、柄鏡（えかがみ）や煙管（きせる）などの故人ゆかりの品を思わせる副葬品のほか、葬送儀礼に関わる銭貨（六道銭）などが見つかりました。中でも、密教の祈祷（きとう）などに使われる法具である独鈷杵（とっこしよ）や五鈷杵（ごっこしよ）の発見は、葬られた人々を理解するうえで重要な発見となりました。



試掘調査で見つかった古代の住居跡

薬師堂東遺跡と周辺の歴史

【古代】薬師堂東遺跡では、陸奥国分寺の東に隣接する古代の集落が見つっています。陸奥国分寺は、奈良時代の中頃（1250年前頃）に建てられたお寺です。天平13年（741）、聖武天皇が仏教によって疫病や飢饉から国を救うため、各地に国分寺と国分尼寺を造るよう命じたのです。

陸奥国分寺は、貞観11年（849）の大地震で大規模な被害を受けますが復興されます。しかし、承平4年（934）の落雷により七重塔が損壊した際には復興されませんでした。陸奥国分尼寺も承暦4年（1080年）に倒壊した記録があり、両寺が衰退していった様子うかがえます。

【中世から近世へ】中世の陸奥国分寺に関する記録は多くありませんが、宮城郡国分寺郷を拠点としていた国分氏が国分寺を修復した記録が残っています。江戸時代になると、慶長12年（1607）に伊達政宗が薬師堂を建て、国分寺を再興します。絵図からも、国分寺の周辺にたくさんの僧坊（僧侶が生活をする施設）が並ぶ様子がわかります（左下図）。調査地点には、江戸時代の中頃から終末まで「院主（いんじゅ）」や「院主坊（いんじゅぼう）」、「馬場本坊（ばばほんぼう）」といった敷地が見られます。「院主」とは「学頭（がくと）」や「別当（べつとう）」とともに国分寺の住職を務めた、比較的位の高い僧職だったようです。

【明治時代】明治初年、神道を国の宗教とするため、それまでの神仏習合（しんぶつしゅうごう）を改め、神と仏を区別する法令が出されます。これにより、廃仏毀釈（はいぶつきしゃく）といった、寺院や仏具の破壊が各地で行われました。国分寺もこの例外ではなく、別当坊（現在の陸奥国分寺本坊）だけを残し、学頭や院主をはじめとした坊は衰退しました。

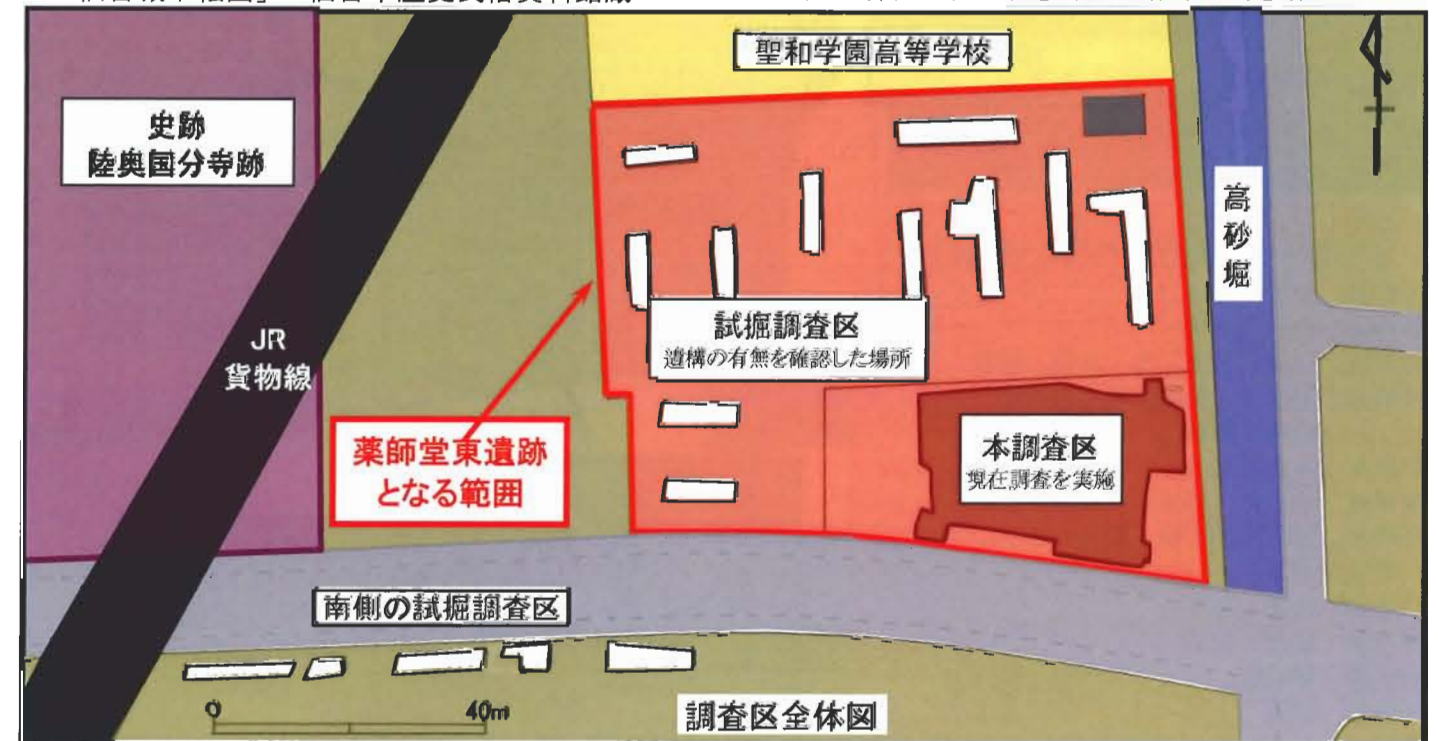


陸奥国分寺を復元した模型
仙台市博物館所蔵



江戸時代中頃の国分寺 延宝・天和年間（1673～1683）
「仙台城下絵図」 仙台市歴史民俗資料館蔵

明治時代の国分寺 明治13年（1880）
「宮城縣仙臺區全圖」 仙台「雑華文庫」蔵



祈り...

恐れ...

江戸時代のおくりを考える

願い...

悼み...

発掘調査の結果、江戸時代の墓が30基ほど見つかりました。江戸時代の絵図を見れば、調査地点は国分寺の僧侶が生活した「院主坊(いんじゅぼう)」や「馬場本坊(ばばほんぼう)」にまたがった土地です。江戸時代の墓は国分寺に関係の深い人々の墓でした。

たくさんの副葬品...愛用品か?



柄鏡 (えかがみ)

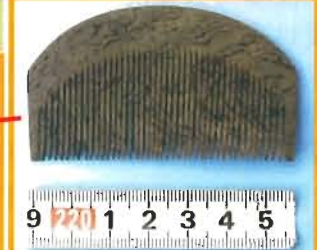
背面の中央には桐(きり)、外側に鳳凰(ほうおう)が表されています。「藤原光長」の銘も。

「藤原光長」って?

江戸時代中頃から終わり頃までの間、代々受け継がれた、鏡師の名前です。



柄鏡の出土した墓(3号墓)



龜甲(べっこう)製の櫛(くし)

龜甲(べっこう)製と木製の櫛(くし)が4点見つかりました。



17世紀後半の磁器

曲物 (まげもの) 何かの容器か

どんな人が暮らした...?



密教法具が出土した墓(5号墓)



片隅に立てかけられた柄鏡と色紙箱



菊文のある色紙箱(しきしばこ)



色紙箱の蓋(内側)の文字



銭貨

死者にお金?—「六道銭」あの世で迷わないように死者に持たせた「三途の川の渡し賃」。



※原寸大

五鈷杵(ごこしよ)

「五鈷杵」とは? 密教の祈とうなどで使われる法具。両端に五つの鈷(きっさき)がある。(長さ:9.1cm)



独鈷杵の見つかった墓(8号墓)

密教法具のひとつ、独鈷杵(とっこしよ)が見つかりました。四角い木棺が多い中、8号墓は180cmもある長方形でした。



独鈷杵(とっこしよ) (長さ:9.5cm)



南北方向の溝

東西方向の溝

調査が終わり埋め戻した場所

調査が終わり埋め戻した場所

焼土土坑 (火葬跡か) 火を受けて穴の周りの土が焼けている。穴の中からは、炭化物や焼けた土に混じり、骨が見つかった。

古代の住居跡 何軒か重なりあっている。同じ場所に繰り返し建て直されていた。竪穴住居跡の壁や床は削られてほとんど残っていない。

壺と瓦の見つかった穴 割れた平安時代頃の壺が、瓦とともに見つかった。接合すると完全に近い形になったが、底部だけは見つからなかった。

道路

高砂堀

~発掘調査でわかったこと~

- 古代の住居跡と江戸時代の墓が30基ほど見つかりました。
- 見つかった墓の特徴は...
 - 墓 穴 方形と円形がある。方形が多い。深さは1m前後のものが多い。
 - 棺 箱型と円形がある。箱型が多い。8号墓は長方形の木棺である。
 - 副葬品 独鈷杵や五鈷杵など、密教に関係の深いお墓がある。煙管や銭貨は多くの墓で見られる。
 - 分布 北西にまとまり、東西に並ぶ。
- 調査地点は江戸時代、国分寺に関係する「院主坊」や「馬場本坊」にまたがった土地です。

【副葬品の納められていた墓】

- 1号墓 煙管・銭貨
- 2号墓 煙管・銭貨
- 3号墓 磁器・柄鏡・櫛・曲物・銭貨
- 5号墓 五鈷杵・菊文のある色紙箱 柄鏡・銭貨
- 7号墓 木製の数珠
- 8号墓 独鈷杵・数珠玉・煙管
- 10号墓 漆塗りのお椀、銭貨
- 11号墓 銭貨
- 12号墓 煙管・銭貨
- 16号墓 煙管・銭貨
- 19号墓 数珠玉
- 20号墓 銭貨